

① 地域おこし協力隊活動を振り返って

能勢町の地域おこし協力隊として活動した期間は、振り返ると非常に密度の濃い時間だったと感じています。着任当初は、地域の状況や行政の仕組みを理解することから始まり、試行錯誤の連続でしたが、多くの方々に支えられながら、少しずつ地域との関わりを深めていくことができました。日々の活動を通して、地域にはすでに多くの知恵や経験があり、それをどのように次の世代や外部につないでいくかが重要であることを学びました。能勢町を活動の場として選び、地域の皆さんと関わることができたことは、大きな経験になったと感じています。

② 取り組んできたこと

主に空き家や移住に関する分野を中心に活動しました。まず、町内の空き家の実態を把握するための調査に取り組み、現状の整理や課題の可視化を行いました。その過程で、空き家が単なる「建物の問題」ではなく、相続や管理、地域との関係性など、複合的な要素が絡んでいることを実感しました。

こうした課題を踏まえ、空き家対策に関するセミナーの開催や、移住希望者向けの相談窓口の開設に関わりました。また、他自治体へのヒアリングを通じて先進事例を学び、町外で開催される移住定住イベントにも参加し、能勢町での暮らしや地域の現状について、直接参加者などに伝える機会を持ちました。一つひとつは地道な取組でしたが、調査から発信、相談対応までを一連の流れとして経験できたことは、今後につながる活動だったと感じています。

③ メッセージ

協力隊としての任期は一区切りとなりますが、今後も地域との関わりを続けていきたいと考えています。これまでの活動の中で関わってきた地域団体や関係者の皆さまと連携しながら、関係人口づくりや空き家の課題といった分野に、引き続き関わっていきたくと思っています。能勢町での活動を通して感じたことは、制度や施策だけでは解決しきれない課題が多く、継続的に関わる人の存在が重要だということです。協力隊という立場は終了しますが、これまで築いてきたつながりを活かしながら、必要とされる場面で関わる形を模索していきたいと思っています。これまで支えてくださった皆さまに感謝するとともに、今後も能勢町とゆるやかにつながり続けていければ幸いです。3年間、本当にありがとうございました。

